

じゅうにがつ せいかつ いちじゅん
12月は生活のサイクルが一巡する

いちねん お じゅうにがつ むかし たいしゃく せいさん おおそうじ あたら
一年の終わりの12月は、昔から貸借の清算や大掃除など新
とし むか じゅんび つき げんざい じゅうにがつ
しい年を迎えるための準備であわただしい月だった。現在も、12月
で せいぼ ぞうとう ぼうねんかい とし お ぎょうじ
にボーナスが出て、お歳暮の贈答や忘年会など、年の終わりの行事
せいかつ おく
であわただしい生活を送る。

かいしゃ かんちょう がっこう しょくば じゅうにがつ ぼうねんかい もよお
会社・官庁・学校などの職場では12月に忘年会を催すところが
おお おんせん かんこうち りょうてい
多い。そのため温泉や観光地をはじめとして、料亭やレストランなどは、
ぼうねんかい かいじょう おお
忘年会の会場として大にぎわいとなる。

せいぼ おく もの でんとうてき しゅうかん むかし さか
さらに、お歳暮として贈り物をする伝統的な習慣も昔よりも盛
りんじ じゅうぎょういん おおぜいやと はんばい はいたつ
んになり、デパートなどでは臨時の従業員を大勢雇って、販売・配達
たいおう こじん ねんがじょう か ゆうじん しんるい ひごろせわ
などに対応する。個人も、年賀状を書いて友人・親類をはじめ日頃世話
ひと せんばい おく いったい ひ とうかん いちがつ
になっている人や先輩に送る。ある一定の日までに投函すれば、1月
ついにち はいたつ ねんまつ なか かいしゃ
1日にまとめて配達されるので、年末のあわただしい中で、会社などで
ねんがじょうが はげ ひと すがた かずおお み
も年賀状書きに励む人の姿を数多く見かける。

むかし かね も あ か
昔はお金の持ち合わせがないときには「つけ」で買い、たまった「つ
おおみそか せいさん いま ぜいきん いちがつ
け」は大晦日までに清算しなければならなかった。今でも税金は1月
じゅうにがつ しゅうにゆう けいさん にほんじん いしき じゅうにがつ
から12月までの収入で計算するので、日本人の意識には12月

せいかつ いちじゆん
で生活のサイクルが一巡するというパターンができあがっている。

さいきん ねんまつ ねんし ぎょうじ さ かいがいにりよう で ひと おお
最近、年末から年始の行事を避けて海外旅行に出かける人も多
くになり、空港の国際線は混雑を極める。また、海外に行かないまでも都会
はな たの もの とかい のこ おおみそか
から離れてスキーを楽しむ者や、都会に残っていても、大晦日にホテル
とま しょうがつ むか ひと おお
に泊って正月を迎える人も多くなってきた。

す げんだい いちがつみつ か いちがつよつ か
そういうふうにして過ごすのは、現代では1月3日までで、1月4日
ごようはじ ふつう しごと はじ
は、御用始めといって、普通の仕事が始まる。

おお つと さき たが かんぱい おこな ねんが かい
多くの勤め先では、お互いどうしのあいさつと乾杯を行う年賀の会
がある。若い女性は最初の日には和服を着て出勤する人もいる。な
きもの はれぎ ふだんぎ くべつ いま
お、着物には晴着と普段着があつて、ハレとケの区別が今でもはっきり
している。